



令和3年6月14日  
～美ら島の未来を拓く～  
沖縄総合事務局

## 内閣府

### 沖縄総合観光ポータルサイトの掲載情報の追加について ～沖縄の知られざる魅力をPRします～

新型コロナウイルス感染症の拡大のため、新規掲載を見合わせておりました観光ポータルサイト「オキナワンパールズ」について、掲載を再開します。

掲載第2弾として、世界自然遺産登録を目前に控えたやんばる3村、西表島を含む県内7町村の情報と、県内テレワーク施設の情報を6月18日に掲載します。

また、7月上旬を目途に県内の3分の2にあたる28市町村の情報掲載を予定しています。今年秋頃に、経路検索機能等を備えたサイトの公開に向けて準備を進めています。

<トップページ>

OKINAWAN  
PEARLS



<https://okinawan-pears.ogb.go.jp/>

#### ＜今後の予定（令和3年）＞

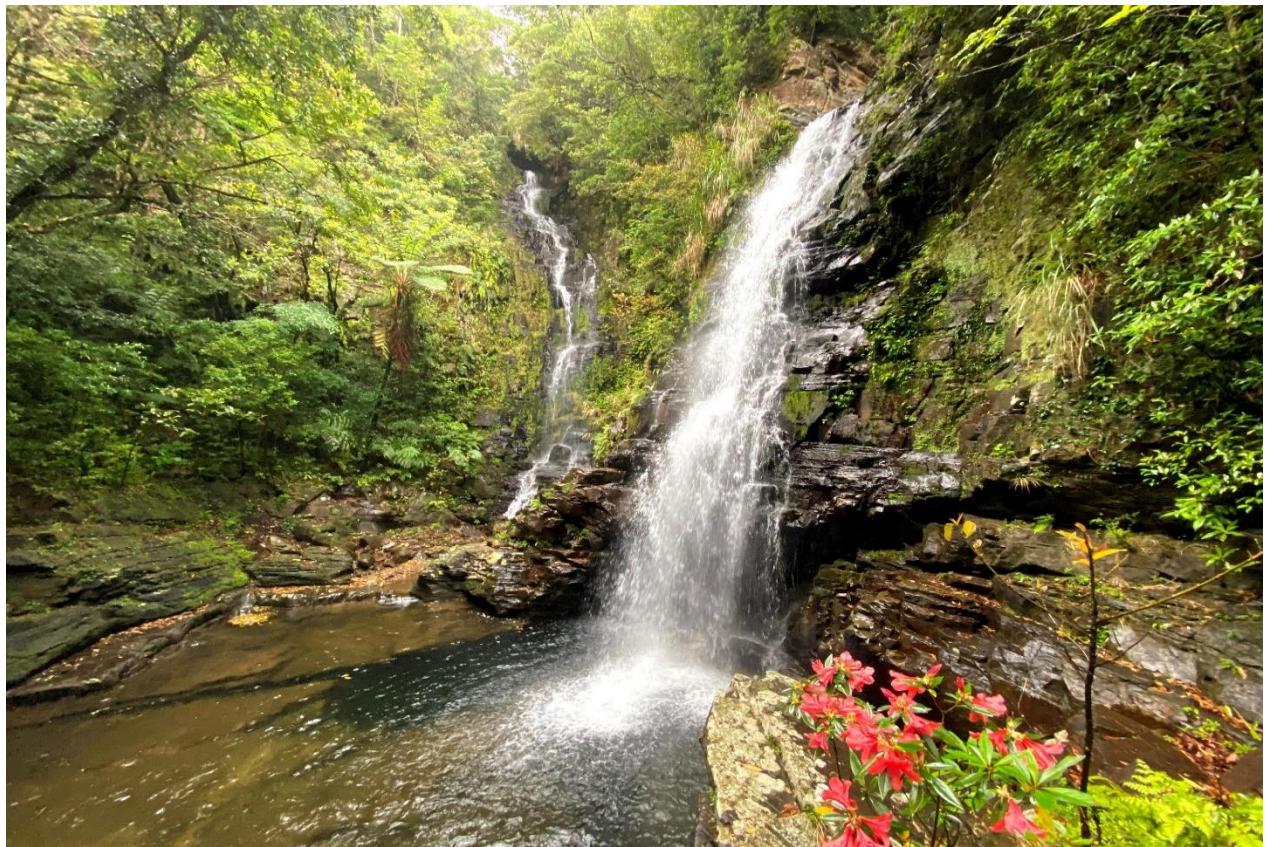
- |         |   |
|---------|---|
| ○6月18日  | ・国頭村、大宜味村、東村、竹富町西表島、伊江村、宜野座村、嘉手納町の7町村（計288件）の情報掲載 |
|         | ・県内のテレワーク施設（計38件）の情報掲載                            |
| ○7月上旬目途 | ・県内3分の2の市町村（28市町村）の情報掲載                           |
| ○秋 頃    | ・経路検索機能等※を備えた本格版のサイトの公開                           |

※①目的地までの経路検索、②キーワードやタグの検索、③サイト内人気ページランキング表示、④掲載写真の増加、⑤文化財、名勝等のカテゴリーを30分類に拡大、⑥北部、中部、南部など6つのエリア検索に加え、市町村毎の検索、島毎の検索を可能とすること等予定。

#### お問合せ先（内閣府沖縄総合事務局）

- |                     |                                  |
|---------------------|----------------------------------|
| ○沖縄総合観光施策推進室（斎藤、古謝） | 電話：098-866-1812 FAX：098-860-2369 |
| ○沖縄市町村施策支援室（波平、棚原）  | 電話：098-866-0047 FAX：098-860-1025 |

## シンゲランファーの滝（右）、雨降りの滝（左）/国頭村（安波）



### ①見どころ

安波ダムの上流に流れ落ちる名瀑ですが、ダムの水位が高い時にしか近づくことができない幻の滝です。

### ②概要

安波ダム堤体からダム湖（クイナ湖）上流約3.2kmの位置にあり、滝の落差はシンゲランファーの滝で約16mあります。地元の言葉で滝のある地域を「シゲーラ」、川を「ファー」ということから「シゲーラの川の滝」という意味で呼ばれています。「雨降り」は雨がたくさん降らなければ枯れてしまうということから、この名が付きました。安波ダムの「雨降りの滝」と「シンゲランファーの滝」は、ダムの水位が高い時にしか近づくことができず、普段は見られません。安波ダムの平常時の最高貯水位は103.5mで、この水位が1m以上下がると、川底が見えて幻の滝に通じる川へ船を進めることができなくなります。

### ③ヒストリー

「シンゲランファーの滝」と「雨降りの滝」は、かつて、かなりの悪路を歩かなければ辿り着けない、現在よりも更に幻の滝と言うべき存在でしたが、安波ダム建設（1982年3月完成）により、ダム湖（クイナ湖）が出来たことにより、船舶（巡視船）等でアプローチが可能となりました。

### ④ワンポイントアドバイス

「シンゲランファーの滝」と「雨降りの滝」は、やんばる学びの森などの団体が行うカヌーツアーや安波ダムクイナまつり（隔年開催）で行われる湖面遊覧で体験可能となっています（ただし、ダム貯水位の状況によります。）

# ヤマシシガキ（猪垣） / 大宜味村（押川）



## ①見どころ

大宜味村の険しい山道に築かれた「十里の長城」とも呼ばれる長大な猪垣（石垣）です。

## ②概要

大宜味村全域を囲むように喜如嘉～津波まで全長約31kmにも及ぶ長大な猪垣です。1776年から1782年にかけて、塩屋、屋古前田、田港・渡野喜屋・根路銘等の住民が各村の役人の指揮の下に猪垣の大々的な補修工事が行われ、高さ七尺（約2.3m）より四尺（約1.3m）の石垣を完成しました。農閑期や月夜に石を集めて積んだとも記録されています。

## ③ヒストリー

畑へのヤマシシの進入は、主食である芋や他の作物を失うことにもなり、農民の生存にもかかわることだけに、大宜味村の先祖は、杣山（現在村有地）と農耕地（畑）との境界に猪垣を築き、畑地へのヤマシシの侵入を防ぎ、畑を守っていました。殊に猪垣に隣接する土地の所有者は代々自分の畑を守るためにも、大宜味村全域の畑を守るためにも、自分の土地に接する猪垣を責任を持ってその保全に努め、崩れたら直ぐに補修をして猪垣を維持していました。一説には、この猪垣の完成によって、それまでよりも村人の平均寿命が20歳も伸びたと言われています。

## ④ワンポイントアドバイス

大宜味村宇押川六田原（前ホテルシャーベイ跡地付近）～根路銘棚原山林間（上原ハキンジョウ）の1.3kmが村指定文化財（2005年10月1日指定）となっています。

ハブに注意してください。

かつて使用していた仕掛け等があるので足元に気を付けてください。

# ウッパマビーチ/東村（慶佐次）



## ①見どころ

東村唯一の天然ビーチです。

## ②概要

自然なままの真っ白い砂浜が1kmほど続いており、夏場は海水浴やキャンプを楽しむことができます。ビーチへ向う道のりには、さとうきび畑があり、昔ながらの原風景が広がっています。近くには慶佐次湾のヒルギ林や海上保安庁慶佐次ロラン局の施設などがあり、村内でも景勝の地として知られています。

## ③ヒストリー

「ウッパマ」とは、沖縄の方言で「大きい浜」という意味で、同じ名前のビーチが、沖縄県内にはいくつかあります。

## ④ワンポイントアドバイス

駐車スペース（7～8台程度）があります。

トイレがあるほか、トイレの裏にはコインシャワーがあります。

# 祖納集落/竹富町、西表島（祖納）



## ①見どころ

祖納集落内には、多くの史跡や貴重な文化財が点在しており、集落内の石垣や暴風林は歴史の趣を感じさせます。特に夜の祖納集落での散歩は、歴史的な重厚感の中にも月明かりと虫の声、前泊海岸の波の音に包まれながら、日頃の喧噪を忘れゆっくりと流れるひとときを感じるのもお勧めです。

## ②概要

祖納集落は西表島で歴史的に最も古い集落で、1477年に起きた済州島民漂流の見聞記（「朝鮮王朝実録」）に出てくる「所乃島」「所乃是麼」が祖納村と想定されています。祖納崎半島における台地上の集落を上村（ウイヌムラ）、半島付け根の低地集落を下村（シムヌムラ）と呼んでいます。大正期、上村から下村への移住が次第に始まりましたが、現在の上村には集落跡が残っています。

## ③ヒストリー

1500年のオヤケアカハチ事件の後、首里王府に功績のあった慶来慶田城用緒（けらいだぐすくようちょ）が、1502年に西表首里大屋に任命されました。それ以来西表村は西表島西部全域を行政区としていました。1760年に慶田城村が立てられましたが、その背景には首里王府の体制が整ってきたことがあります。西表島には石垣島の役人が赴任してくるようになりました。慶田城村の行政区は祖納の阿立（アダティ）、大立（ウフダティ）、御仮（ウカリ）、下原（スンバレ）、真山（マヤマ）、落水（ウティミチ）、成屋（ナリヤ）、舟浮（フナウキ）、網取（アントウリ）、鹿川（カヌカ）で、西表村の行政区は祖納の一部と干立、多柄、浦内となりました。それ以来、祖納村は二つに分けられ、同じ敷地内に2つの番所（役所）が置かれるということが100年近く続きました。「琉球国由来記」（1713年）にみる御嶽の管轄からも、当時の祖納村は西表村と慶田城村に分けられていたことが分かります。そのころの慶田城村与人・宮良里賢は王府の許しも得ないまま、1768年に西表村番所を祖納から上原に移しました。このとき慶田城村は西表村と改め、上原に移った西表村は上原村に改めるように願い出たところ、これが王府に認められました。つまり、現在の上原の地に引越した西表村を元の祖納の地に戻し、慶田城村を廃して新しく上原村を創建するという異例の「村替え」が行われたのです。その結果、慶田城村はなくなり、本来の西表村に戻りました。民謡「まるま盆山節」には、「阿立 大立 おりに 下原 真山 浮道 成屋 舟浮」と小村名が歌われていますが、これらのうち「成屋」「舟浮」の2つを除く他の村々は、いずれも現在の祖納村を形成する小村名です。

## ④ワンポイントアドバイス

集落を見学される際は、大声を出さないなど、マナーを守っていただくようお願いします。

# 阿良御嶽/伊江村



## ①見どころ

この御嶽の拝所は、アーチ状に石が積まれ独特な形をしています。その拝所の向こうに見える「城山（たつちゅー）」の姿は、まるで石の額に収まったようで神々しく見えます。

## ②概要

阿良の浜に面したこの御嶽は、「タツガナシ」と「サラメキガナシ」をいう2神を祀っていて、昔から旅の往復の無事安泰を祈願する拝所として知られています。「タツガナシ」とは、旅立ちをする時立ったままで拝む神、「サラメキガナシ」とは、舟をサラサラと走らす神のことといわれています。また、この御嶽は、大和旅に行く人や兵隊に出征する者にとっても忘れられないところでした。帰島の時も舟から降りたら迎えにきた人々と一緒に解きお願い（ブトウチウグワン）をし感謝の気持ちを伝えなければならないところでした。行きも帰りも御願の婦女が鼓（スイズィニ）をもって旅行安全と感謝のダンジュカリュシを謳いました。

## ③ヒストリー

阿良御嶽は、砂糖商人塩谷金次郎にまつわる伝説の地でもあります。明治の初め頃、那覇の西町に黒砂糖の売買をしているシーペードゥン（本名は塩谷（しおがい）金次郎）という商人がいました。ある日、彼は、船を一隻借りて島に黒砂糖を買いに来ましたが、黒砂糖はすでに売り切れてしまっていました。黒砂糖を買うために用意したお金を使わず持って帰って、渡久地港に着いて船の代金を払おうとしたところ、探してもお金が見つかりませんでした。実は、島を立つ前に用を足した時、お金をサバニの傍に置き忘れてしまったのでした。彼は急いで島に引き返し、「どうかお金をお守りください」と阿良の御嶽に祈りました。その後サバニの所に戻ってみると、お金はそっくりそのまま元の場所にありました。彼は、「御嶽が守ってくれた」と感謝し、そのお礼に「塩谷」と「シーペードゥン」と書いた香炉を二つ奉納したとされています。残念ながら今は香炉はありませんが、大正時代の頃まではあったと伝えられています。

## ④ワンポイントアドバイス

阿良御嶽の2つ目の鳥居と、その向こうに見える城山とのコントラストは、伊江島でも随一のインスタ映えスポットとなっています。

1977年に村の有形民俗文化財に指定されています。

# 屋良ムルチ/嘉手納町



## ①見どころ

エメラルドグリーンの池が神秘的な大蛇伝説が残る聖地です。

## ②概要

比謝川の上流、嘉手納町と沖縄市の境の山中に屋良ムルチ（やらムルチ）と呼ばれる池があります。屋良ムルチは、比謝川の沖縄市との境界部分にある淵（クマイ）で、大きさは、1934年（昭和9年）に行われた沖縄県耕地課の測量によると、長さ49間（89m）、幅21間（38m）、深さ48尺（14m）となっています。沖縄市との境界にあり、屋良地区の集落の祭祀の場となっています。

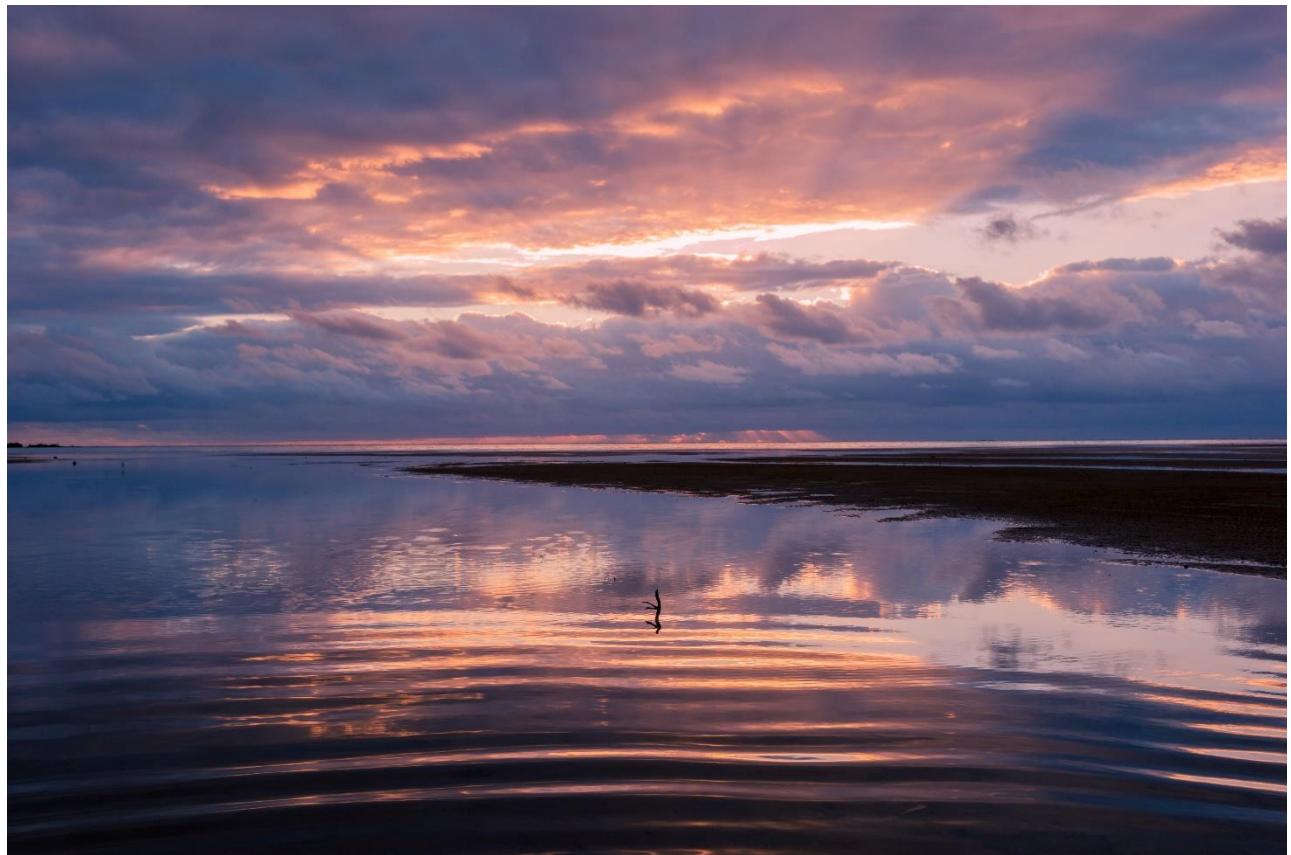
## ③ヒストリー

屋良ムルチには、「人々に災いをもたらす大蛇が住んでおり、生贊(いけにえ)として親孝行の若い娘が差し出されたが、天の神様が娘を救い、大蛇を退治した」という伝説が残っています。この伝説は義本王の時代のことであるとされ、この話を聞いた義本王は大変喜び、その娘を王子の妃として向かい入れ、年老いた母と幸せに暮らしたとされています。この伝説をもとに、18世紀初め頃に玉城朝薰が創作した組踊「孝行の巻」が作られたといわれています。また、18世紀中頃に作られた沖縄各地の口碑伝承を集めた「遺老説傳(いろうせつでん)」にも、屋良ムルチに大蛇が住んでいたと記されています。

## ④ワンポイントアドバイス

現在でも字屋良集落では、村の繁栄と豊作を願うムルチ祈願が旧暦4月14日以内に行われています。  
ハブに注意してください。

# 潟原（かたばる）の干潟/宜野庄村（松田）



## ①見どころ

沖縄本島北部で最大規模を誇る干潟で、条件が揃えば、ボリビアのウユニ塩湖のように、水面が鏡のように反射して、美しい風景が見られることでも有名です。

## ②概要

潟原の干潟とは、干潟に由来した地名で、イノーに砂や泥がたまってできた干潟のことです。宜野庄村の古知屋潟原は古くからあった干潟で、本土復帰後に急速に拡大しました。干潮時には約2kmにわたって干潟が現れます。サンゴ礁と海岸線のコントラストがとても美しいことでも知られています。また、ミナミコメツキガニやシオマネキ、それを食べにくる多様な野鳥など、生物にとっても非常に重要な役割を持つ干潟であり、野鳥の鳴き声や生物たちの命の育みを観察できるのも魅力です。沖縄本島中南部、石垣島、竹富島など、これまで各所にあった干潟が埋め立てによって消滅しつつあり、その意味でも潟原の干潟は貴重な場所となっています。

## ③ヒストリー

潟原の干潟は、乃木坂46の「裸足でSummer」のパブリックビューイングのロケ地として使われました。

## ④ワンポイントアドバイス

潟原の干潟は、西銘橋からの眺めが一番いいと言われています。

鏡面に反射する美しい風景を見るためには、朝焼け、無風、干潮の3条件が揃うことが必要であるとされています。